



想像を超える思い出を

雨で1日延期となり、3日に実施した運動会でしたが、天気もグラウンドコンディションも、子どもたちのパフォーマンスを発揮するのに最適な状態になりました。この日の開催にあたってご協力いただいた PTA 役員の皆様や保護者・地域の皆様、そして先生方に心から感謝いたします。集団の中でこそ、個性が滲み出るということを改めて感じた時間でした。転んでもすぐ



に立ち上がり一生懸命走る人、退場の時に風で飛んだマーカーを並べる人、友達の帽子を拾いに行く人、声を張り上げて友達の競技を応援する人、家族への感謝の思いを笑顔で表す人、思うようにいかなくても食いしばって我慢する人。個性があふれ、磨かれていく瞬間がたくさんあり、その瞬間に立ち会えたことを嬉しく感じました。この日が、子どもたちにとって豊かな感性を伸ばす一つのきっかけになることを願っています。



6年生の道徳に「なれなかったリレーの選手」という教材があります。内容はというと.....

・・・「ぼく」は1年生の時からずっとリレーの選手に選ばれている。今年は6年生で最後の運動会。絶対に選手になりたいが、今年はリレー選手を決める前日に、夜中の1時過ぎまでゲームをしてしまった。リレーの選手決めでは、寝不足で足がもつれて走れない。選手にはなれず、ゲームをやめられなかった自分を許せなかった。.....



これまで私が経験した運動会でも、代表リレーとか団対抗リレーなど学年の代表がメンバーとなって走るリレー種目がありました。学年ごとに立候補した人の中から、タイムを競って選手を決めていたのを思い出します。みなさんの中にも、同じような運動会での経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。

この6年生の教材は、ゲームに熱中しすぎて選手になれなかった「ぼく」の姿を通して、後悔することの無いよう日頃から大切にすべきこと、節度を守ることにについて考えることをねらいとしています。このような場面は、日常の家庭生活でもよくあることではないでしょうか。

「あなたが言うことを聞かないで遅くまでゲームしてるから。」「だから早く寝なさいって言ったでしょ。」などの言葉が聞こえてきそうです。実際本校でもゲームや SNS に夢中になっている人もいます。

運動会の午前の部が終わり、昼食の時間になったとき、家族とうまく待ち合わせができずに本部席に来た人たちがいました。家の人を迎えに来た時、それまで不安でいっぱいだった顔が見る見るうちに笑顔になって走っていきました。これを見たとき、子どもはゲームや SNS より家族と過ごす時間の方が好きなのだと確信しました。私たち大人が子どもをゲームやスマホに取られないように、日頃から子どもたちとの時間を大切にしなければならぬとつくづく感じた運動会の日でした。